

新聞「出合いのメディア」

中日新聞北陸本社の菅沼堅吾代表による「新聞の読み方講座」が31日、金沢市堀川新町の第一学院高校金沢キャンパス

であり、「新聞は出合いのメディア」と強調し、新聞の読み方や役割について話した。（堀井聡子）

金沢・第一学院高 本紙代表が読み方講座

一、三年の十六人が出席。三十一日付の本紙朝刊をめくりながら、一面から順に読むだけでなく社会面やおくやみ欄から読む人もいて、読み方に正解はないと説明し、「毎朝、新聞

を聞く」と新しい出合いがある。新聞には政治から地域の話題まで全てが詰まり、いろいろな人生や言葉に出来る面白さがある」と語り掛けた。新聞には社説があり、意



「新聞の読み方」のテーマで講演する中日新聞北陸本社の菅沼堅吾代表。金沢市堀川新町の第一学院高で

見を主張する組織だからこそ新聞社であると強調したほか、社説には最近の世の中の出来事がやさしく書かれているため、「毎日新聞を読めない人にとってお得なページ」と勧めた。

無料のネットニュースと違って、新聞は読者から購読料をもらいプロとして権力を監視する「代行業」であるとした上で、「読者からの信頼を力に、悪い人たちと戦う。読者がいなくなれば戦えない。新聞は読解力や社会を見る目を養い、異なる年代の人と会話するきっかけにもなる。まず一カ月読んでみてほしい」と呼び掛けた。

普段あまり新聞を読んでいないという生徒たちは、社会面や生活面、地域面などのページをめくっていた。二年の太田千咲さん（セ）は「同じ日の新聞でも、能登や金沢など地域ごとに紙面構成が変わると知って驚いた。自分の興味がある記事しか読まないニュースアプリと違って、新聞

はいろんな話題が一度に見ることができると分かった」と話していた。

講座は、地域の人たちを講師に招く「夢授業」の環境で開かれた。